

平成 28 年度

横浜市立高等学校
及び

南高等学校附属中学校
自己評価書

横浜市立横浜商業高等学校

<学校情報>

1 課程・学科 全日制課程・商業科・スポーツマネジメント科・国際学科

2 学校長 長田 正剛 (平成 29 年 4 月 1 日現在 在職 1 年目)

3 学校教育目標

本校は学則に則り、後期中等教育およびビジネス教育・国際理解教育を行い、他を尊重し自立精神を持つ個を育み、将来の社会人としてビジネス社会を理解し、問題解決能力と国際的視野を持つ豊かな人間を育てることを目標とする。

○商業科教育目標

生徒一人ひとりの能力に応じた個性を尊重し、経済のサービス化・グローバル化・ICTの急速な発展や地域産業の振興など起業家精神を身につけた人材の育成及び職業人としての倫理観・遵法精神などの育成への対応のため、力強く生きることができる資質を、体験的・実践的な活動を含めながら高め育てる。

●重点目標

- ☆ビジネス等の実社会で役立つ将来のスペシャリストやリーダーを育成する。
- ☆地域に貢献する即戦力としての人材を育成する。
- ☆教科指導や特別活動・部活動を通して全人教育・人柄教育を行う。

○スポーツマネジメント科教育目標

スポーツや健康に関する学習や実践的な活動を通して、科学的な知識・理解を深めるとともに、スポーツとそのマネジメントにかかわる能力を育てる。

●重点目標

- ☆地域における生涯スポーツ振興の担い手づくりと横浜におけるスポーツの活性化に貢献する人材を育成する。
- ☆スポーツや健康分野におけるビジネスの振興発展に貢献する人材を育成する。
- ☆将来の社会的・職業的自立に向けた資格や技術を習得した人材を育成する。

○国際学科教育目標

自主自立の精神を培うと共に、国際感覚、コミュニケーション能力及び問題解決の方法を身に付け、国際社会で世界の人々と共に生きる力を育てる。国際社会で共に生きるために、自己及び自国の文化を深く認識し、かつ多文化共生の姿勢をもてるよう国際感覚を育てる。

●重点目標

- ☆国際社会で共に生きるために、自己及び自国の文化を深く認識し、かつ多文化共生の姿勢をもてるよう国際感覚を育てる。
- ☆異なった文化の中でも積極的にコミュニケーションできる能力を育てる。
- ☆多様化する国際社会で主体的に行動するため、自ら問題を発見し整理し解決方法を追求し続ける能力を育てる。
- ☆教科指導や特別活動・体験実践活動を通して全人教育・人柄教育を行う。

4 教育方針

- 生徒の主体的な学びを支援し、「活力」「魅力」ある学校づくりを推進する。
生徒の興味・関心・意欲の向上を目指した指導方法の工夫を行い、わかる授業に取り組み、一人ひとりの生き方を踏まえた進路指導を推進し、課題解決能力の育成を図る。
- 新たなビジネス教育（経済のサービス化・グローバル化や ICT への対応、起業家精神の育成、職業人としての倫理観）や世界の人と共に生きる力を育てる国際理解教育を推進する。
国際的な視野に立った先進的なビジネス教育やコミュニケーション能力を身につけた国際社会に貢献しうる人材を育成する。
- 学校評価を実施し、絶えず問題意識を持って、学校教育改革を推進する。学校評価委員会を活用し、P 計画・D 実行・C 振り返り・A 行動 のサイクルで改善を継続させる。
- 第 2 期横浜市教育振興基本計画に沿って教育改革を推進し、Y 校としての商業教育の方向性を示し、また国際学科の一層の定着を図る。学力の全体的な底上げを図り、伸びる生徒を伸ばし進路に責任を持つ。開設 14 年目を迎えた国際学科の振り返りを行い、成長を図るとともに、ビジネスシーンをリードする人材の育成を目的とした YBC（Y 校ビジネスチャレンジ）クラスの実践と検証を行う。また、開設 3 年目となったスポーツマネジメント（YSM）科のより良い教育課程の編成に向けて、引き続き取り組んでいく。

5 教職員数（平成 28 年 12 月 1 日現在）

学 校 長	<u>1</u>	校 長 代 理	<u>1</u>	副 校 長	<u>2</u>	事 務 長	<u>1</u>
教 諭	<u>67</u>	（男 <u>43</u> 、女 <u>24</u> ）		養 護 教 諭	<u>2</u>		
実 習 助 手	<u>2</u>	事 務 職 員	<u>3</u>	技 能 職 員	<u>3</u>		
A E T	<u>1</u>	非 常 勤 講 師	<u>17</u>	管 理 員	<u>5</u>		

6 生徒在籍数（平成 28 年 12 月 1 日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	7	112	165	277
2	7	121	154	275
3	7	110	168	278
4				
合計	21	343	487	830

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		77	77	100 %
生徒	1年	277	265	95.7 %
	2年	276	252	98.6 %
	3年	277	251	90.6 %
	4年			
	合計	830	768	93.0 %
保護者		830	703	84.7 %

8 自己評価実施日

教職員	平成 28 年 12 月 13 日～平成 28 年 12 月 16 日
生徒	平成 28 年 12 月 12 日～平成 28 年 12 月 16 日
保護者	平成 28 年 11 月 7 日～平成 28 年 12 月 21 日
地域	平成 年 月 日～平成 年 月 日

9 集計・分析期間

平成 28 年 11 月 21 日～平成 28 年 1 月 20 日

10 自己評価書の公表方法・時期

平成 29 年 6 月、学校 WEB ページ上で公表の予定。

<自己評価>

1 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況 魅力ある高校教育の推進状況

商業科（関連アンケート番号：教職員4・5・6、生徒1、保護者1・2・6・10）

取組	<ul style="list-style-type: none">・個性を伸ばす専門教育の推進を目指し、検定取得による専門性の深化に取り組んだ。・高大連携や産学連携による取組を積極的に行った。・各種ビジネスコンテスト等への参加についても積極的に取り組んだ。・専門学校2校との連携により、日商簿記検定やリテールマーケティング（販売士）検定合格に向けての特別講座を実施した。また、公務員志望者に対しては公務員受験講座を開設し、民間企業志望者に対しては就職マナー講座を行った。・地域との連携として、「総合実践」において南区内の老人クラブとの交流授業を6月と9月の2回実施した。・「課題研究」では、調査研究活動や職業資格の取得などをテーマとして、少人数のゼミ形式による授業展開を行い、3月に課題研究発表会を本校講堂で実施し、1・2年の保護者にも公開した。・専門教育の中学校・中学生およびその保護者へのPRへの取組として、学校案内やWEBページの改良を行った。
----	--

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家資格である IT パスポート試験に 4 名が合格 (27 年度 1 名) し、基本情報に 1 名が合格した。また、難関の日商簿記 1 級にも 1 名が合格した。 ・ 全国商業高等学校協会 1 級 3 種目以上合格者については、27 年度 54 名であったので、28 年度はそれ以上の成果ができることを期待していたが、結果は 38 名 (1 級 6 種目合格 5 名、5 種目 4 名、4 種目 13 名、3 種目 16 名) となった。 ・ 日商簿記検定とリテールマーケティング検定合格者数は、現時点では結果が出ておらず集計できないが、27 年度以上の成果が期待される。 ・ 高大連携による取組として、横浜市立大学・関東学院大学・東洋大学と積極的に連携をとった。 ・ また 2 年 YBC「課題研究」の授業において、中外製薬との産学連携が新たにスタートし、同社から与えられた課題を生徒達が考察し解決策のアイデアを提示し講評をいただくという企画が実現した。 ・ インターンシップ事業においては計 9 社に 20 名を受け入れてもらい、ビジネスの現場実習を通じて、職業意識の向上と商業を学ぶ意義を育むことができた。 ・ 各種ビジネスコンテスト等への参加については、「総合実践」のなかでビジネスグランプリ応募に取り組み、学校賞を受賞した。日経 STOCK リーグでは 1 作品が入選を果たした。 ・ 2 年「課題研究」では、課題研究発表会を保護者に公開して評価感想を募り、29 年度の授業改善の参考とした。 ・ 公務員志望者 42 名のうち、1 次試験合格者は延べ 69 名、最終合格者は延べ 34 名と健闘した。 ・ 老人クラブとの交流授業はお年寄りの方々に大変好評であり、また、生徒達のマナー実践の場ともなり、良い体験となった。 ・ 専門教育の中学校・中学生およびその保護者への PR を目的に、学校案内をより分かりやすくするとともに、随時 WEB ページを更新して最新の情報を発信するよう心がけた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習の時間が取れていない生徒が多い。 ・ 全国商業高等学校協会 1 級 3 種目以上合格者数が 27 年度よりも減少した原因として、スポーツマネジメント科の完成年度にあたり、3 年の商業科 1 クラス減となった結果、27 年度よりも 1 級受験者数が減少したことが考えられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時から家庭学習の習慣を身に付けさせていきたい。 ・ 入学時から資格取得を奨励し、3 年間を見通して計画的に上位級取得を目指させたい。また、補習対策も教科全体で取り組んでいく。

スポーツマネジメント科

(関連アンケート番号：教職員 1・27、生徒 9、保護者 3・4)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開設 3 年目を迎えたが、3 年生はそれまで同様初めての取り組みが多々あった。スポーツ科学Ⅲの授業では、スポーツもしくは自分の身体に関する疑問について研究・調査を行い発表会を行った。スポーツマーケティングの授業では、スポーツ関連のプロフェッショナルに来校してもらい講演会を行った。総合実践の授業では、はまっ子未来カンパニープロジェクトに取り組み、株式会社ファンケルの協力のもと、南区地域振興課との共催でパラリンピアンを招いての講演会、パラスポーツ体験会を行った。また、YSM プログラム（総合的な学習の時間）では、28 年から新たに JAXA（宇宙航空研究開発機構）との連携で、「宇宙とスポーツ」という授業に取り組んだ。 ・ 他クラスの動きとは連動を取ることが困難だったが、3 年生の進路指導には最大限の努力をして取り組んだ。 ・ 特に会計系の授業において 27 年度の反省を生かし、検定上位級合格を視野に入れた授業展開に取り組んだ。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ科学Ⅲの研究発表会では、教育委員会の方々や他校の先生からの助言を得られたこともあり、生徒にとっては大変有意義な研究活動となった。スポーツマーケティングでの講師の話や、総合実践でのイベントの経験は、進路の選択に少なからず影響を及ぼした。また、パラスポーツの体験は、共生社会について考えるきっかけとなった。 ・ 授業展開や指導体制の工夫の結果、検定合格者数も年々増加している。 ・ 1 期生 39 名のうち、半数近くが体育系・理学系・栄養系など、大学進学を実現した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ YSM の活動に興味を持ってくださる外部機関が多いのはありがたいことだが、現状の教育内容の許容を超えつつある。 ・ 進路指導については、生徒・保護者ともに物足りなさを感じていたようである。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・教員ともに負担過多にならないよう、外部との取り組みを精査していく。 ・ 生徒・保護者が望む資格の取得や進路実現を図れるよう、教育課程の変更を柔軟に検討していく。

国際学科

(関連アンケート番号：教職員 4・5・6、生徒 1、保護者 1・2・6・10)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際交流活動をさらに充実させる取り組みとして、カナダ、バンクーバー市にある Sir Winston Churchill Secondary School と姉妹校提携が 2 年目となった。28 年度は Sir Winston Churchill Secondary School 傘下の Ideal Mini School との交流を行った。 ・ 他校を招いて英語で行う学生会議 YSF (Yokohama Student Forum) では、全参加校にプレゼンテーションを行う機会を設け、同じテーマでも異なる視点で発表を行ったことで視野が広がり、その後の分科会で熱心な意見交換が行われた。 ・ 国際学科 NEWSLETTER の発行を継続し、月 1 回のペースで発行した。生徒や保護者に国際学科の取り組み内容や予定を発信したり、生徒の活動報告を載せたりした。これにより、1 年生にとっては行事の意味を知ることによって 3 年間の流れを把握でき、2 年生にとっては進路決定をする上で役立った。 ・ TOEIC-IP は、これまでのリスニングとリーディングに加えて、スピーキング力をはかるテストを導入した。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月の YSF には台湾から 4 名の高校生が参加した他、従来からのプログラムで、スウェーデン Tumba 高校から 2 名、ロードアイランド州 Classical 高校から 9 名の生徒を受け入れた。姉妹校 Churchill 校からは 14 名の生徒が本校で学校体験を行った。1 日だけの訪問ではあったが、ミャンマーから 8 名の生徒が訪問し、本校生徒とお互いの学校生活や文化の違いなど交流会をもった。合わせて 28 年度は 37 名の海外生徒を受け入れたことで、生徒の国際交流および異文化理解の機会を拡充することができた。 ・ 本校主催の学生会議 YSF は、国際学科の生徒 48 名に加え、国内 13 校、台湾 1 校から合わせて 60 名が参加し、総勢 108 名という最大規模で開催することができた。運営の中心となった 2 年生は、当日の会議はもちろん、8 ヶ月以上におよぶ準備期間を通して、問題解決能力やディスカッション能力を高めることができたと思われる。 ・ NEWSLETTER に関しては、保護者への情報発信として機能していると思われる。 ・ TOEIC-IP は毎年同じ時期にこのテストを行うことで、技能レベルごとの比較や個々の生徒の成長や課題を知ることができた。28 年度は 3 年生の平均スコアが 575.3 点と 27 年度の 3 年生の平均点 522.3 点を大きく上回った。

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会体験活動の一環として、ボランティア活動の参加に関して具体的な取り組みを行うことができなかった。 ・ WEB ページが行事ごとに更新できなかった。 ・ ホームステイを受け入れていただいたご家庭から、「事前に受け入れ生徒の行程表や説明会を開いてほしかった」「受け入れる生徒の情報を知りたかった」など受け入れていただく家庭への配慮に課題があった。 ・ 選択教科の説明が不十分な教科があった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動に関しては、各団体からの情報入手と、NEWSLETTERなどを用いた生徒への情報発信や投げかけを積極的に行っていく必要がある。また、Global Learning の中でもボランティアに関する講演を検討していき、最終的には社会体験活動の一環として、ボランティア体験を学科の中でも重点化していく。 ・ WEB ページは保護者のみならず将来の受検生も学校選択の資料として閲覧することを意識して、経営会議の中で WEB ページに何をあげるか確認していき、定期的に更新していく。 ・ 国際交流型学習を謳っている以上、外国での交流以上に受け入れ側のケアも重要であると考え。今後は、外国からの生徒受入れを引き受けていただくご家庭には説明会を開催し、十分な説明を行う。 ・ 選択教科の説明は国際学科の専門科目を中心に担任がまとめて行うことがあり、説明が不十分になりがちであった。29年度は、国際学科の選択教科説明会を開き、生徒が教科の内容を十分理解した上で教科を選択できるようにする。

2 教育活動の状況

□教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 4・5・6、生徒 1、保護者 1・2)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、一人ひとりの力を最大限に伸ばし、進路実現に繋げていくための指導方法の工夫・改善を図る。 ・幅広い視野や教養を身につけるため、主体的・意欲的に学習活動に取り組む態度を育成する。 ・家庭学習の習慣が身につく教科指導や、放課後・休業期間等を活用した教科指導を継続して行う。 ・各学科における検定等の取得、英語力の向上に向けて、きめ細やかな指導を充実させていく。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員対象項目である「生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている」は85%を越え、教員側の自己評価は高い。（集計表1頁教職員5）。また、保護者の対象項目である「本校のカリキュラム（教科・科目構成）は、お子さんの進路実現に役だっていると思いますか」でも80%を超えており、一定の成果は上がっている。 ・商業関連の資格検定以外にSTEP英検やGTECなど、校内で受験できる機会を多く設けて、部活動生徒にも受験者が増加している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態にあったきめ細かな指導をさらに進めるとともに、授業方法・授業内容の工夫と教科指導力の向上を図る必要がある。 ・生徒が達成感を得られるよう、細かな目標設定や生徒が取り組みやすい環境を提供するなどの工夫を行う必要がある。そのために、授業公開をさらに進め、研究授業や意見交換を行い、さらに生徒が主体的に学べる工夫をする必要がある。 ・検定試験の受験指導（補習を含む）や家庭学習の習慣化の推進、部活動生徒の学習時間の確保などが課題である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの職員が部活動の顧問を担当している現状にあるため、検定試験の受験指導等の時間確保が難しい現状である。生徒の興味・関心・意欲の向上を目指したより一層の授業改善と創意工夫を図り、わかる授業を実践することにより、学習意欲及び学力の向上につなげていく必要がある。 ・勉強と部活動の両立を目指す生徒も多く、時間を浪費させないためにも生徒に対する学習方法のガイダンスを充実させ、見通しを持たせながら学習を進め、情報の共有、教科間連携の強化など、学校全体で学習環境を整え、学習する雰囲気をつくる必要がある。 ・家庭学習の習慣化を図るため、課題の提出（回収）方法、課題に対する評価等を工夫していきたい。

□進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10、生徒 1・6、保護者 6)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・就職を希望する生徒に対しては、入学時から職業人になる自覚を求めようように指導し、また、3年生には毎週、社会に求められる人材となるようきめ細かな指導を行う。また、内定後も卒業時までの指導として、就職セミナーを3回実施する。 ・進路ガイダンス等の取り組みを単に増やすのではなく、指導の内容が生徒の問題意識やニーズときちんと合致しているか、指導のタイミングが合致しているかを検証し、効果的なガイダンスとなるべく企画運営する。特に3年間の経年変化に合わせた将来像づくりを促すガイダンスを行った。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に始まった1社目の就職試験で89%の生徒が採用内定を決め、12月の時点で就職を希望する生徒全員が内定を受けた。 ・「あなたは進路説明会等で進路に関する情報を十分に理解できましたか」(生徒6番)で「そう思う+ややそう思う」の数値が79%から84%へと肯定的意見が5ポイント増加した。特に現2年は77%から85%へと変わった。生徒に対して、経年変化を踏まえてガイダンス機能を充実させる取り組みの成果が上がったと考えられる。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は、コミュニケーション能力およびイノベーション能力を備えた意欲ある人材を求めている。このような企業のニーズに応えられる人材の育成にさらに取り組み、1社目での内定率をさらに高められるよう、2年生の早い段階から、キャリア教育や課題研究等の授業を充実させる必要がある。また、3年生では、途中から民間を希望する生徒への短い期間での就職指導の工夫が求められる。 ・保護者の回答6「希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われていると思いますか」の「そう思う+ややそう思う」の数値が82%から78%へと4ポイント下がり、教職員の回答10「生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切に取り組んでいる」の「充分に実現できている+おおむね実現できている」の数値が77%から71%へと6ポイント下がっている。生徒へのガイダンスの取り組みが見えにくい部分があるということだと考えられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃から就職指導に重点を置くとともに、1・2年生へのキャリアプランニングを大切にし、3年間を通しての進路指導体制をさらに整えていく。 ・進学指導の実践的な取り組みについて理解を得られるよう、家庭へのお知らせや校内の報告を増やしていき、保護者会や保護者説明会、職員会議等の機会を活用していく。

3 学校経営の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員 23・24 生徒 13、保護者 10)

取組	<p>1. PTA 活動との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・ 年 3 回発行される PTA 広報委員会による「PTA だより」は学校の教育活動を保護者へ伝える媒体として貴重なものであるから、その内容の充実を図るための連携協力をする。・ PTA 成人委員会による「施設見学会」、その他の企画は保護者の学校理解のために有効なものであるから、協力、連携をする。・ Y 校祭での PTA の活動の場であるバザーや無料休憩所の企画運営に協力する。・ Y 校おやじの会による月 1 回の環境整備活動や教員との交流ソフトボール大会や南太田小学校と蒔田中学校の PTA と連携しての大岡川沿いの清掃活動に参加、協力する。 <p>2. 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「わがまちの学校づくり推進会議」を通じて、地域との連携に引き続き取り組む。・ Y 校祭においては、生徒会の「地域交流局」の生徒の協力のもと、地域のステージ発表や南区スポーツ推進協議会による「さわやかスポーツ」を実施する。・ 地域ボランティア「花づくりの会」により行われる、Y 校庭園整備に協力する。・ 南区のイベント（南まつり・桜まつり）へ参加する。・ 地域清掃を大掃除及び美化委員会による特別清掃活動として行う・ 国際学科の生徒による南太田小学校「英語教室」での交流を行う・ 商業科による「老人クラブ・パソコン教室」を行う。・ スポーツマネジメント科が運営主体となる第 3 回「Y 校カップスポーツ GOMI 拾い大会」を行う。
----	---

<p>成 果</p>	<p>1. 「PTA 活動が十分保護者に理解され円滑に運営されている」（集計表教職員 23PTA 活動）の高い評価に見られるように、本校の PTA 活動をはじめとする保護者の諸活動が、教職員との連携協力のもと活発に行われた。</p> <p>2. 地域との連携</p> <p>「学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている」（集計表教職員 24 地域連携）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「わがまちの学校づくり推進会議」を通じて、地域との連携に引き続き取り組んだ。 ・ 2 から 8 の取組に対しては多くの地域の方々のご協力、ご参加のもと成功裡に行うことができた。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA 活動の発信に際し、より一層「個人情報の取り扱い」に注意を払うこと。 ・ 「横浜商業らしい地域連携活動」を、地域の方々にさらに理解して頂くことが課題である。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「個人情報の取り扱い」に万全を期すことを課題とし、とくに「Y 校 PTA だより」の内容を含め編集方針、手順を再検討する。 ・ 地域への情報発信のためにも WEB ページをさらに活用する。